

令和6年度岡山市まち・ひと・しごと創生市民会議

日 時：令和7年1月21日（火）

14時00分～

場 所：ほっとプラザ大供第2研修室

次 第

1 開会 あいさつ

2 資料説明及び意見交換

（1）第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和5年度の
取組状況について

（2）第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 中間評価につ
いて

第2期総合戦略を着実に推進するため、PDCAサイクルの考えに基づき、成果指標の達成状況について令和5年度の評価を実施

● 43の指標のうち、33の指標が「上昇」(76.7%)

● 1の指標が「横ばい」(2.3%)

● 9の指標が「低下」(20.9%)

うち8の指標が新型コロナウイルス感染症の影響(18.6%)

《評価基準》

「上昇」基準値に対し上昇

「低下」基準値に対し低下

「横ばい」基準値に対し横ばい(変動率±0.5%の範囲内)

基本目標	上昇	横ばい	低下		合計
			コロナ	その他	
1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する	6	0	4	0	10
2 岡山市への新しいひとの流れをつくる	4	0	0	0	4
3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	7	0	0	1	8
4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する	16	1	4	0	21
計	33	1	8	1	43

(参考) デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業に係る検証概要

令和5年度の成果指標の達成状況
… 19指標 / 23指標 (82.6%)

➢ 目標が達成できなかった4指標のうち、3指標が新型コロナウイルス感染症の影響(13.0%)

＜デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業＞	達成状況
アフターコロナ時代の移住定住促進プロジェクト	3指標達成 / 4指標
西川緑道公園周辺を軸とした都心の賑わい創出プロジェクト	3指標達成 / 3指標
岡山市版スタートアップ・エコシステム形成によるスタートアップ創出事業	3指標達成 / 4指標
岡山ブランド魅力発信事業	3指標達成 / 3指標
デジタル技術を活用した健康習慣の定着化事業	4指標達成 / 4指標
＜デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）活用事業＞	達成状況
造山古墳が結ぶ・日本遺産群広域連携拠点整備プロジェクト	1指標達成 / 2指標
元気です“おかやま”～バス・ゲートウェイ整備事業～	未達成 / 1指標
高松城址公園を中心とした歴史・観光拠点整備事業	2指標達成 / 2指標

岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況にかかる検証一覧

資料3

基本目標	施策等	指標 番号	担当	指 標	基準値 (R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	指標の評価		総合計画 政策番号	
								状況	コメント		
岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する	数値目標	1	産業観光局	企業立地・再投資件数(累計)(件)	60 (H28～R1)	101 (H28～R5)	116 (H28～R7)	上昇	優れた広域拠点性を有する岡山市の立地特性に加え、吉備スマートIC等の道路ネットワークの強化により、地域未来投資促進法等を活用した物流施設の新設が多く、令和5年度の投資額は平成25年度以降で最も高い294.6億円となり、企業立地・再投資件数も順調に推移している。 引き続き、積極的に誘致活動を進めるとともに、企業の用地確保を支援することで、目標値を達成できる見込みとなっている。	1	
		2	市民協働局	市内企業における管理職(課長相当職以上)に占める女性の割合(%)	7.7 (H30)	10.9 (R3)	15.0 (R7)	上昇	シンポジウムやセミナーなど女性活躍に向けた事業を実施したことや、R4年度以降、女性が輝く男女共同参画推進事業所認証数が順調に増加していることから、R7年度には目標を達成できる見込みとなっている。	13	
	(1)新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興	①地場産業の育成・強化	3	産業観光局	市の創業支援による創業者数(者)	22 (H30)	74	50	上昇	創業希望者への支援を強化し各種支援機関と協力して広報周知に努めた結果、創業者数の増加に繋がっている。	1
		③拠点性を活かした企業と人の集積	4	産業観光局	企業立地・再投資件数(累計)(再掲)(件)	60 (H28～R1)	101 (H28～R5)	116 (H28～R7)	上昇	優れた広域拠点性を有する岡山市の立地特性に加え、吉備スマートIC等の道路ネットワークの強化により、地域未来投資促進法等を活用した物流施設の新設が多く、令和5年度の投資額は平成25年度以降で最も高い294.6億円となり、企業立地・再投資件数も順調に推移している。 引き続き、積極的に誘致活動を進めるとともに、企業の用地確保を支援することで、目標値を達成できる見込みとなっている。	1
	(2)歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進	①観光の振興と情報発信力の強化	5	産業観光局	観光客数(千人)	7,575	5,093 (R4)	9,487	低下	新型コロナウイルス感染症の影響により減少していたが、5類感染症への移行後、観光客数は復調傾向にある。円安など経済情勢に大きく左右されることから、目標達成については見通しが立たないものの、増加傾向は続く見込まれる。	4
		②外国人観光客誘客と受け入れ体制の整備	6	産業観光局	観光客数(千人)(再掲)	7,575	5,093 (R4)	9,487	低下	新型コロナウイルス感染症の影響により減少していたが、5類感染症への移行後、観光客数は復調傾向にある。円安など経済情勢に大きく左右されることから、目標達成については見通しが立たないものの、増加傾向は続く見込まれる。	4
		③コンベンション誘致の推進	7	産業観光局	コンベンション参加者数(人)	162,348	103,990	207,000	低下	新型コロナウイルス感染症の影響により減少していたが、5類感染症への移行後、コンベンション開催件数は復調傾向にあるものの、オンラインやハイブリッド方式による会議開催など、会議形態が変化したため、どこまでコンベンションが回復するか見通しが困難である	4

基本目標	施策等		指標番号	担当	指 標	基準値 (R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	指標の評価		総合計画 政策番号
									状況	コメント	
	(3)活力ある農業の振興		8	産業観光局	新規就農者数 (人)	34	32	50	低下	コロナ禍による先行き不透明感が減退し、経済活動が活発化してきたため、他産業との人材獲得競争が激化している。産地と協力しながら、圃場整備などを充実させ、新規就農者の増加を図っていきたい。	3
	(4)地域の活力を担う人材の育成・確保	①多様な人材が活躍できる環境づくり	9	保健福祉局	生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数 (人)	26	511 (R3～R5)	750 (R3～R7)	上昇	適職診断フェアなどのPR活動や、企業との雇用条件の調整など丁寧な就労支援を行ったことにより、着実に実績を出している。	20
		②ICT人材の育成	10	教育委員会	授業でコンピュータなどのICTを毎日使用する子どもの割合(%)	小学校5.6 中学校3.8	小学校17.9 中学校 6.6	小学校100 中学校100	上昇	ICTの活用率は上昇傾向にあり、令和6年度は、デジタルAIドリルと授業支援ソフトを導入するなど、授業や家庭学習での端末活用を進めているところであるが、残り2年間での達成は難しいと考える。	14
岡山市への新しいひとの流れをつくる	数値目標		11	市民協働局	移住定住支援により移住した人数 (人)	30	219	90	上昇	おかやまぐらし相談センターによる継続した就職支援により、就職・転職先が決まることで、移住に繋がる件数が増加した。また、地方移住の関心の高まりとともに、移住候補地の移住支援のための補助制度を調べる方々も増えており、補助制度の認知が進み、制度を活用した移住も増えている。	4
	(1)移住・定住の促進	①相談体制や移住・定住への支援等	12	市民協働局	移住定住支援により移住した人数 (人) (再掲)	30	219	90	上昇	おかやまぐらし相談センターによる継続した就職支援により、就職・転職先が決まることで、移住に繋がる件数が増加した。また、地方移住の関心の高まりとともに、移住候補地の移住支援のための補助制度を調べる方々も増えており、補助制度の認知が進み、制度を活用した移住も増えている。	4
	(2)新たな全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進		13	保健福祉局	生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数 (人) (再掲)	26	511 (R3～R5)	750 (R3～R7)	上昇	適職診断フェアなどのPR活動や、企業との雇用条件の調整など丁寧な就労支援を行ったことにより、着実に実績を出している。	20
	(3)地元大学等との連携		14	市民協働局	若者(20歳代)の地域活動への参加割合(%)	20.1	23.3	25.1	上昇	若者を対象にした地域活動への参加を促す取組を公民館等で行っており、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、若者の地域活動への参加割合は、地域や学校とのつながりの中で、順調に増加している。	13

基本目標	施策等		指標番号	担当	指 標	基準値 (R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	指標の評価		総合計画 政策番号
									状況	コメント	
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	数値目標		15	岡山っ子育て成局	子育てしやすいまちと思う保護者の割合(%)	54.4 (H30)	57.2	65.0 (R5)	上昇	前回調査より割合は上昇したが、目標値には至っておらず、引き続き、子育て施策をより一層進めていく。	11
			16	岡山っ子育て成局	保育所等の待機児童数(人)	259 (R2.4.1)	0 (R6.4.1)	0 (R8.4.1)	上昇	待機児童の解消については、保育の受け皿整備と保育士確保が進んだことや、保育コンシェルジュによる寄り添う支援に力を入れた結果等により、達成できた。	11
			17	岡山っ子育て成局	放課後児童クラブの入所希望児童(潜在ニーズを含む見込み)に対する入所出来た児童の割合(%) (※)	77.3 (R2.4.1)	95.1 (R6.4.1)	100 (R8.4.1)	上昇	積極的な施設整備等により、受け入れ児童は増加しているが、ニーズの高まりに追いついておらず、待機児童数は増加している。今後は、施設整備や人員確保支援等にあわせて、民間事業者の活用を進めていく。	11
	(1)保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消	①幼保連携型認定こども園等の整備を推進	18	岡山っ子育て成局	保育所等の待機児童数(人) (再掲)	259 (R2.4.1)	0 (R6.4.1)	0 (R8.4.1)	上昇	待機児童の解消については、保育の受け皿整備と保育士確保が進んだことや、保育コンシェルジュによる寄り添う支援に力を入れた結果等により、達成できた。	11
		②放課後児童クラブの整備を推進	19	岡山っ子育て成局	放課後児童クラブの入所希望児童(潜在ニーズを含む見込み)に対する入所出来た児童の割合(%) (再掲)(※)	77.3 (R2.4.1)	95.1 (R6.4.1)	100 (R8.4.1)	上昇	積極的な施設整備等により、受け入れ児童は増加しているが、ニーズの高まりに追いついておらず、待機児童数は増加している。今後は、施設整備や人員確保支援等にあわせて、民間事業者の活用を進めていく。	11
	(2)結婚・出産・子育て支援	①妊娠・出産・子育てのための切れ目のない支援	20	岡山っ子育て成局	心豊かな岡山っ子供支援団賛助団員(団体)	69	64	90	低下	平成29年度に目標値を達成したため、目標値を上方修正(60⇒90)したが、寄附金による賛助団員数が減少し、見直し後の目標は達成できなかった。	12
			21	岡山っ子育て成局	子育てしやすいまちと思う保護者の割合(%) (再掲)	54.4 (H30)	57.2	65.0 (R5)	上昇	前回調査より割合は上昇したが、目標値には至っておらず、引き続き、子育て施策をより一層進めていく。	11
	(3)ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進	①ワーク・ライフ・バランスの推進	22	市民協働局	仕事と家庭の両立支援に取り組んでいる企業の割合(%)	45.5 (H30)	52.1 (R3)	70.6	上昇	シンポジウムやセミナーなど男女が共に仕事と生活を両立できる環境づくりに向けた事業を実施したことや、R4年度以降、女性が輝く男女共同参画推進事業所認証数が順調に増加していることから、R7年度には目標を達成できる見込みとなっている。	11

※こども計画策定に伴い、R9.4.1時点での待機児童0人を目標とする新たな成果指標を設定予定。

基本目標	施策等		指標番号	担当	指 標	基準値 (R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	指標の評価		総合計画 政策番号
									状況	コメント	
安全・安心に 暮らせるまち をつくり、地域 と地域を連携 する	数値目標		23	都市整備局	居住誘導区域内 人口密度(人／ ha)	58.4 (H27)	59.4 (R2)	59.6	上昇	都市計画マスタープランに基づく計画的な土地利用の推進と関連施策の実施により、各地域の拠点性が高まり、居住誘導区域内の人口密度が向上したと考えられる。	5
			24	保健福祉局	健康寿命(歳)	男性71.7 女性74.4 (H28)	男性72.2 女性75.0 (R1)	男性72.6 女性76.2	上昇	H28年と比較し、男性、女性とも上昇傾向にある。「身体活動・運動」「栄養・食生活」「社会参加」を三本柱とした、自然に健康になれる社会環境づくりが進んでいると考えられるが、昨年末に発表された全国値では、新型コロナウイルス感染症の影響により、R1年と同程度となっており、目標値の達成は困難な見込み。	20
	(1)コンパクトで ネットワーク 化された活力 あふれるまち づくり	①計画的なまちづくり の推進	25	都市整備局	居住誘導区域内 人口密度(人／ ha) (再掲)	58.4 (H27)	59.4 (R2)	59.6	上昇	都市計画マスタープランに基づく計画的な土地利用の推進と関連施策の実施により、各地域の拠点性が高まり、居住誘導区域内の人口密度が向上したと考えられる。	5
			26	都市整備局	JR岡山駅乗降客 数(1日当たり) (万人)	13.9	13.1	14.3	低下	新型コロナウイルス感染症の影響により一時大きく下がったが、順調に回復しているため、達成を見込んでいる。	2
		②公共交通の 維持・確保	27	都市整備局	自宅から都心や 身近な拠点に公 共交通で30分以 内に行ける人口 (万人)	30.3 (H27)	30.7 (R2)	36.1	上昇	生活交通の導入により増加しており、また、地域公共交通利便増進実施計画(R6～R10)に位置付けたバス路線再編の実現により、今後も増加する見通しとなっているが、新型コロナウイルスの影響による減便や廃止もあり、R7時点で目標値には達しない見込み。	6
			28	都市整備局	生活交通導入地 区数(試行運転開 始地区を含む) (地区)	3	8	8	上昇	令和5年度には目標を達成したが、他にも導入検討地区が複数あり、引き続き導入地区拡大に向け取り組む。	6
		③まちなかの 賑わい創出	29	産業観光局	中心市街地の歩 行者通行量(人)	(平日)4,324 (休日)5,654 (H29)	(平日)6,158 (休日)7,764	(平日)4,400 (休日)5,700	上昇	商店街個性創出事業や商店街サポートアイデア協働事業などの賑わいを創出するソフト事業と、基盤整備事業によるアーケード改修などのハード事業により、商店街の魅力向上・活性化に資する事業を推進しており、実績は目標値を上回っている。	2
			30	都市整備局	JR岡山駅乗降客 数(1日当たり) (万人) (再掲)	13.9	13.1	14.3	低下	新型コロナウイルス感染症の影響により一時大きく下がったが、順調に回復しているため、達成を見込んでいる。	2

基本目標	施策等		指標 番号	担当	指 標	基準値 (R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	指標の評価		総合計画 政策番号
									状況	コメント	
		④魅力的な商店街の振興	31	産業観光局	中心市街地の歩行者通行量(人)(再掲)	(平日)4,324 (休日)5,654 (H29)	(平日)6,158 (休日)7,764	(平日)4,400 (休日)5,700	上昇	商店街個性創出事業や商店街サポートアイデア協働事業などの賑わいを創出するソフト事業と、基盤整備事業によるアーケード改修などのハード事業により、商店街の魅力向上・活性化に資する事業を推進しており、実績は目標値を上回っている。	2
		⑤文化芸術施設等を拠点とした文化振興やスポーツによる活力の創出	32	市民生活局	過去1年間に文化芸術を体験(参加・鑑賞)した人の割合(%)	57.3	57.5	65.0	横ばい	令和3年度調査では41.7%まで落ち込んでいたものの、まだコロナ禍の影響が残っていた令和5年度調査の結果は、令和元年度と同程度まで回復している。新展開を迎えた各種文化芸術事業により、さらに文化芸術の体験割合は高まると思われる。	9
	(2)地域連携の推進	①周辺地域の活性化	33	都市整備局	都市としての便利さと自然の豊かさとの調和の満足度(%)	37.8	56.9	39.3	上昇	北長瀬未来ふれあい総合公園では、令和5年4月の供用開始後、各種イベントを通じて賑わいを創出している。経済・産業の振興や地域の歴史・文化の継承など、地域の課題解決や地域資源を活用した魅力ある地域づくりに向けて様々な取組を行ったことにより、満足度が向上したと考えられる。	5
	(3)健康寿命の延伸と豊かな医療・介護資源を生かした地域づくり	①生涯にわたり健康でいきいきと生活できるまちづくり	34	保健福祉局	健康寿命(歳)(再掲)	男性71.7 女性74.4 (H28)	男性72.2 女性75.0 (R1)	男性72.6 女性76.2	上昇	H28年と比較し、男性、女性とも上昇傾向にある。「身体活動・運動」「栄養・食生活」「社会参加」を三本柱とした、自然に健康になれる社会環境づくりが進んでいると考えられるが、昨年末に発表された全国値では、新型コロナウイルス感染症の影響により、R1年と同程度となっており、目標値の達成は困難な見込み。	20
			35	保健福祉局	生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数(人)(再掲)	26	511 (R3～R5)	750 (R3～R7)	上昇	適職診断フェアなどのPR活動や、企業との雇用条件の調整など丁寧な就労支援を行ったことにより、着実に実績を出している。	20
		②医療・介護の強みを生かした地域包括ケアシステムの構築	36	保健福祉局	認知症サポーター数(人)	52,565	67,978	75,000	上昇	新型コロナウイルス感染症の影響により養成人数が一時的に伸び悩んだが、養成講座のオンライン開催や地域住民が集まりやすい公民館での養成講座の対面開催等の受講環境の整備により、養成人数は順調に回復し、R7年度目標を達成できる見込みである。	21
			37	保健福祉局	生活・介護支援サポーター養成数(人)	1,362	1,649	2,080	上昇	新型コロナウイルス感染症によりR2～R4の参加者が減少した。R5は、参加者は増加したものの、コロナ流行以前に比べては人数が少なくなっている。ただ、全講座(2回シリーズ)出席者を養成数とカウントしており、実際には1回のみ参加者も多い。	21

基本目標	施策等	指標 番号	担当	指 標	基準値 (R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	指標の評価		総合計画 政策番号
								状況	コメント	
	(4)安心に暮らせる地域づくり	38	危機管理 室	自主防災組織率 (%)	92.2	94.3	100	上昇	地域の防災意識の向上により、組織率は着実に上昇しているが、町内会役員の高齢化、担い手不足等により、新たな組織を立ち上げることが困難な町内会も存在する中で、伸び悩んでいる状況である。	24
	(5)地域の課題解決のための持続可能な取組	39	市民協働 局	地域活動への参加割合(%)	45.3	43.3	50.8	低下	フォーラムや講座の開催、相談対応など様々な支援を行っているところだが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け地域活動全般が低調となり、R5年度はまだ元の状態に戻っていないためと考えられる。	17
		40	市民協働 局	企業・NPO法人等が参加した安全・安心ネットワーク数(団体)	40	45	65	上昇	各区に分かれて意見交換会や研修会を実施するなど活動の学びあいや情報を共有する取組等を行っているところであり、地域の事情は様々であることから目標値には届いていないものの、微増傾向が続いている。	17
		41	市民協働 局	ESDプロジェクト参加団体数(団体)	307	381	405	上昇	毎年度順調に参加団体数が増加しており、当初のR7目標値はR5に達成したため、R5にR7目標値を上方修正した。R6の参加団体数も例年通りで推移しているため、修正後の目標値は達成できる見込み。	17
		42	環境局	温室効果ガス排出量(千t・CO ₂)	6,119 (H29暫定)	5,283 (R2暫定)	5,141 (R5)	上昇	太陽光発電設備による再生可能エネルギーの導入促進や、LED照明設備等の導入による省エネルギー化の推進により、排出量は確実に減少してきており、目標を達成できると考える。	27
		43	環境局 下水道河川局	汚水処理人口普及率(%)	84.2	86.1	90	上昇	コロナ禍や、景気の動向等の影響を受け、合併処理浄化槽設置に係る補助金申請件数は減少傾向となっている。合併処理浄化槽の設置基数そのものは増加しており、汚水処理人口普及率の向上に寄与しているものと思われる。(環境局) 近年の物価高騰などによる事業費の増大により、事業の執行に影響が生じつつある。(下水道河川局)	28

※ 上記表中の数値目標を「未来へ躍動する桃太郎のまち岡山創生プロジェクト」(企業版ふるさと納税制度に係る地域再生計画)のKPIとして設定しているため、当該制度に係る検証を兼ねるものとする。

デジタル田園都市国家構想交付金

〔 地方創生推進タイプ／旧地方創生推進交付金
地方創生拠点整備タイプ／旧地方創生拠点整備交付金 〕

活用事業等 効果検証

政策局政策部政策企画課

(1) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ／旧地方創生推進交付金）

事業名 アフターコロナ時代の移住定住促進プロジェクト

担当局 市民協働局、産業観光局

事業概要

実施年度 R3年度～R5年度（3カ年）

単位：円	R3年度	R4年度	R5年度
歳出（事業費）	63,038,706	57,401,738	55,569,568
歳入（交付金）	(30,549,853)	(27,762,235)	(27,444,250)

全体事業の概要	①岡山市のことを知ってもらい、移住先として選ばれるための裾野を広げ、②移住するために最も重要な「しごと」を確実に確保するための支援を行い、③移住後の不安を解消するための支援まで、移住者それぞれに寄り添った支援を実施する。 また、新型コロナウイルスの影響でテレワーク等の働き方の変化に対応し、④テレワーカー用お試し住宅、サテライトオフィス等の企業誘致を進める。 これらの事業を確実に実施することで、地方移住への関心の高まりを逃すことなく移住者確保につなげる。
事業内容	1. 移住プロモーション 本事業では、最新のデジタルマーケティング手法を活用し、ターゲットや地域、発信時間を定めて、ターゲット毎に異なるPR動画や情報を発信する。また、AI等を活用し、検索履歴から分析した各個人のニーズに応じた移住情報を、プッシュ型で発信することで、移住検討層をターゲットにした移住情報の発信も行う。 また、産業振興部局とも連携しながら、テレワーク推進関係の支援メニューや、サテライトオフィス設置、創業支援関係等の情報も発信することで、起業を考えている方や、現在の仕事をつづけながら、地方で働くことを希望する方、または、地方にサテライトオフィス等の設置を検討している企業へのアプローチも行う。 2. おかやまぐらし相談センター 本事業では、東京と大阪に「おかやまぐらし相談センター」を開設し、移住希望者の要望が多かった「仕事さがし」「職業斡旋」について、職業安定法に基づく有料職業紹介事業の許可を受けた事業者、運営等を委託し、移住希望者のニーズ、適性等から、「おかやまぐらし相談センター」が掘り起こした企業とのマッチング、企業との調整（面接日程等）、履歴書の作成ポイント等、就職に至るまでの寄り添い支援を行い、移住先での確実な就職につなげる。 これにより、移住先でのしごとの不安を解消し、さらには、移住後のしごとのミスマッチを防ぐことが可能となり、移住定住促進につながる。 さらに、イベントやセミナーを実施し、積極的に東京圏と関西圏の大学に足を運び、UIターン就職を働きかけることで、東京圏と関西圏等に在住の若者の地方移住を強力に進める。 また、岡山市内にも拠点を設け、就職先の地元企業を独自に開拓し、移住希望者のニーズに沿った企業を紹介することが出来るような仕組みをつくり、数百社以上の地元企業を独自に就労先企業として登録している。 このように、複数拠点を整備し、大規模なUIターン就職支援を実施する事業は、政令指定都市では類をみない取組であり、これらの取組を実施することで、今まで、希望するしごとが見つからないため移住を諦めていた方や、移住やUIターンに興味なかった若者の地方移住を進めることが出来る。 3. サテライトオフィス等の企業立地支援 岡山市にはIT系専門学校が多く立地しているものの、卒業生の受け皿となるIT系企業が少なく、また、そのことは、専門学校の講師となる人材不足にもつながっている。岡山市と市内専門学校が「企業誘致及び人材育成に係る連携協定」を結び、企業訪問やイベント出展等を通じて、協働で企業誘致活動に取り組む。また、IT系企業が専門学校に外部講師として社員を派遣する際の経費の一部を補助する（交付金対象外）ことで、岡山市の人材育成を図るとともに、都市部の企業（社員）が岡山市へ足を運ぶきっかけをつくって、関係人口として関わってもらうことで、サテライトオフィス等の設置にも繋げる。 4. オンライン移住相談 東京と大阪の「おかやまぐらし相談センター」、岡山市役所内の相談窓口、で対面の移住相談とともにオンライン移住相談を実施することで、いつでも、どこからでも相談者は相談可能となることで、移住相談数の増加が期待できる。 また、岡山市役所内にオンライン相談ができる通信環境を整備したことにより、市職員、地元の移住支援団体、その他専門機関等、相談内容に応じて、柔軟に対応することができ、移住する上での個別の不安解消につなげることができ、さらに、先輩移住者から地域の情報を直接聞くこともでき、移住前から、地域の先輩移住者と関わることで、移住後の人間関係に関する不安解消にもつながる。 5. 交流会 移住後の定着に繋げるため、先輩移住者や地域の方々との交流会を定期的に行い、移住者の生活面等での相談に対応する。

KPIの進捗状況

指 標 名	移住・定住支援により移住した人数(人)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目 標 値	70	75	80
実 績 値	71	164	219

指 標 名	おかやまぐらし相談センターの支援により就職した人数(人)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目 標 値	30	35	40
実 績 値	3	23	23

指 標 名	おかやまぐらし相談センターへの求人登録企業数(社)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目 標 値	220	110	110
実 績 値	206	127	132

指 標 名	岡山移住プロモーションの動画再生回数(回)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目 標 値	1,000,000	500,000	500,000
実 績 値	1,447,419	506,472	502,925

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	地方創生に効果があった
	○移住プロモーションについては、動画再生回数の目標値を達成し、移住関心層への情報発信を行うことができた。 ○おかやまぐらし相談センターについては、就職決定人数についての目標値は下回った。令和4年度は、前年度の新型コロナ感染拡大防止対策の反動で相談件数が大幅に伸びたが、令和5年度はその影響がなくなり、若干、相談件数が減った。しかし、当センター開設前の相談窓口との比較では、令和元年度（令和2年度は新型コロナの影響があり、比較対象外）から大幅に伸びており、また、就職決定人数は、相談件数が減っているにもかかわらず、昨年度の実績を維持しており、計画した効果が徐々に現れてきている。 ○オンライン移住相談では、場所や時間の制約等がなく、気軽に相談できるため、遠方からの相談者が出てきた。 ○交流会については、対面での開催を1回実施した。これまではワークショップを実施していたが、今年度は先輩移住者から話を聞いたり、移住者同士の交流を深めたりすることに重点を置いた内容とし、お互いの不安を取り除く場となった。
新年度事業見直し 方針等	事業内容の見直し（改善）
	今後の方針の理由 ○プロモーション動画については、ある程度長期間活用することを想定した汎用性の高いものを作成しているため、必要に応じて、今後も活用しながら情報発信を行っていく。 ○東京や大阪で、移住相談の対応だけでなく、就職支援ができる相談窓口として「おかやまぐらし相談センター」の認知が進んでおり、今後もさまざまな移住や岡山市の企業への就業に関連する相談に対応していけるよう、改善を重ねて行く。 ○オンライン移住相談や移住者交流会は、移住希望者や移住者が気軽に不安を取り除ける場として提供しながら回を重ね、改善し続けることにより、移住・定住を促進する。 ○企業訪問や展示会出展等を通じて東京圏等の企業と関係を構築し、講師派遣やオフィス見学等、実際に岡山市を見てもらう取組を継続しながら、サテライトオフィス等の誘致に繋げていく。

事業名	西川緑道公園周辺を軸とした都心の賑わい創出プロジェクト
担当局	都市整備局

事業概要

実施年度	R3年度～R5年度（3カ年）
------	----------------

単位：円	R3年度	R4年度	R5年度
歳出（事業費）	10,094,957	14,057,588	17,000,000
歳入（交付金）	(5,047,478)	(7,028,794)	(8,500,000)

全体事業の概要	【事業の背景】 ○岡山市は、近畿と九州を結ぶ西日本の東西軸と山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントに位置しており、道路・鉄道・空路等の広域交通の結節点であり、中枢中核都市としてダム機能を担っている。 ○岡山県毎月流動人口調査の結果では、岡山市の社会動態（日本人）は、2017年までは転入超過であったが、2018年以降転出超過になっており（2019年421人の転出超過）、岡山市の人口ビジョンによれば、今後も人口減少は進んでいくことが見込まれる。人口減少が進むことにより、都心の賑わいの低下や地域経済の縮小が懸念されており、さらに新型コロナウイルス感染症の影響により、まちなかの人出はさらに減少しており、都心の賑わいづくりにも新しい生活様式への対応が求められている。 ○岡山市の代表交通手段をみると、昭和46年から平成24年の約40年間で、公共交通機関の利用や徒歩は著しく減少し、自動車利用が2.2倍に増加している。自動車の分担率は60%と全国的にも高水準となっており、自動車に過度に依存した状況にあり、滞留につながらないことから、まちなかの賑わいの低下につながっている。 【全体事業の概要】 「車中心から人優先の歩いて楽しいまちづくり」をキーワードに、歩道の拡幅等による快適な歩行空間の整備、道路空間や公園等の公共空間の活用を通じて、居心地がよく歩きたくなるまちなかの形成を地域と一体となり進めることで、回遊性の向上、歩行・滞留空間の創出による賑わいのあるまちづくりの実現を目指す。
事業内容	①西川エリアマネジメント事業 ○「安全で安心な住み続けられる街」へのルール作りや地域連携の推進（経済活動基盤強化） ○エリアブランドのイメージを醸成する広報活動（情報発信） ○新たな公園活用とにぎわいの創出（イベント） ○都市再生推進法人の指定を目指し、まちづくり活動実績を積み上げるとともに、各種事業等の実施による収益確保の仕組みや運営体制の整備を図る ②歩行者天国等イベントの実施 ③ライトアップイベント 西川夏あかり

KPIの進捗状況

指 標 名	まちづくりやイベントへのボランティア参加人数(人)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目 標 値	10	20	30
実 績 値	13	88	143

指 標 名	官民協働による公共空間を活用したイベント回数(回)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目 標 値	40	50	60
実 績 値	30	55	62

指 標 名	総事業費に占める自己資金や協賛金等の割合(%)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目 標 値	90.8	88.8	85.8
実 績 値	94.1	75.0	66.9

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	地方創生に相当程度効果があった
	新型コロナウイルスが5類に移行し、飲食イベント等の開催が増えたことから、エリアマネジメント団体の収益が向上した。 個別の事業の検証については以下のとおり。 ○西川エリアマネジメント事業 飲食イベント等の開催回数が増えたことで収益が向上した。また、都市再生推進法人(R4.3.8指定)として、行政や地域企業との共催による防災イベントや清掃活動など地域を巻き込んだ事業を引き続き行うことができた。 ○歩行者天国等イベントの開催 新型コロナウイルスが5類に移行し、歩行者天国を4回開催できた。歩行者天国の実施にあたっては、学生を中心としたボランティア団体「N-ravi」がイベントの企画・運営に参加したことで、まちづくりやイベントへのボランティア参加人数が増えた。 ○ライトアップイベント 西川夏あかりの開催 後楽園や岡山城等のライトアップイベントと同時期に開催するなど連携を図ったことで、多くの来場者で賑わった。また、ライトアップイベントに合わせた音楽や飲食イベントも計画されるなど、イベントと連携した公園の活用ができた。
新年度事業見直し 方針等	事業の継続
	新型コロナウイルスが5類に移行し、まちなかでの飲食イベント等の開催が増え、また学生を中心としたボランティア団体の活動も広がりを見せてきたところ。 エリアマネジメント団体として、都市再生推進法人に指定した「一般社団法人ぶらっと西川」を中心に地域と連携したイベントの開催や情報発信を通じて、地域コミュニティの醸成やプレイヤーの育成を行うとともに、収益確保や運営体制整備の支援を継続する。

事業名	岡山市版スタートアップ・エコシステム形成によるスタートアップ創出事業
担当局	産業観光局

事業概要

実施年度	R4年度～R8年度（5カ年）
------	----------------

単位：円	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
歳出（事業費）	67,807,260	81,600,000			
歳入（交付金）	(33,903,630)	(40,800,000)			

全体事業の概要	【事業の背景】 岡山市では、「岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の具体的な施策として「新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興」を掲げ、「創業・起業支援」「市内中小企業の競争力強化」「企業誘致の推進」の3本柱に取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、価値観や行動様式が変化する中、イノベーションの必要性がこれまで以上に重要になっており、その担い手であるスタートアップの創出をより促進していくための支援は必要性、緊急性ともに高い状態にある。 イノベーションを伴い、新たな市場を開拓することで、短期間で飛躍的な成長を目指すスタートアップについては、2019年8月1日にスタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）」を開設する等、中四国地方の市町村単位で唯一、スタートアップ支援事業に特化した形で取り組んでおり、スタートアップが生まれる素地が出来てきている。 【全体事業の概要】 ○岡山市版スタートアップエコシステムの形成を促進することで、スタートアップが継続して生まれる好循環をつくる。 ○スタートアップが継続して生まれ、増加することにより、 ①イノベーションと新規雇用が創出される ②イノベーションを伴った事業を生み出し、新たな市場の開拓、外貨の獲得、地域のデジタル化、市民生活の向上へ寄与する ③地域経済が活性化されることによる市民の所得増、税収増 ④起業しやすい街となることでの若年層の定住率の向上 が見込まれ、その結果、地域経済の活性化、人口増加の好循環を生み出すことを目指すもの。
事業内容	ももスタを中心とした「岡山版スタートアップ・エコシステム」を形成し、その中で、様々なステークホルダーが自発的に関わることが出来るコミュニティの形成に向けた支援、環境づくりを行う。 1 スタートアップ支援拠点運営事業 官民連携組織によりスタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）」を運営し、起業家や投資機関などのステークホルダーのコミュニティ形成を図る。 2 スタートアップ支援事業 （1）起業家の掘り起こし等に繋がるイベント開催、起業家創出・事業成長のための集中支援 （2）次世代を担う起業家の創出を促進するため、中高生を対象に起業家精神の情勢を図るプログラムの実施 （3）ノーコードツール活用スキル習得により、ビジネスアイデアをプロダクト開発まで昇華させるプログラムの実施 （4）スタートアップの成長の鍵となる資金調達環境の強化を目的としたプログラムの実施 （5）スタートアップと市が協働し、行政・社会課題の解決に取り組むプログラムの実施

KPIの進捗状況

指 標 名	市の創業支援による創業者数（人）				
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目 標 値	35	40	50	55	60
実 績 値	45	74			

指 標 名	ももスタで開催されるイベントへの参加者数（人）				
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目 標 値	1,000	1,600	2,600	2,700	2,800
実 績 値	1,245	2,635			

指 標 名	ベンチャーキャピタル等から投資が行われたスタートアップ企業数（社）				
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目 標 値	3	6	9	12	15
実 績 値	3	4			

指 標 名	市の創業支援による創出された新規事業数（件）				
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目 標 値	-	5	10	15	20
実 績 値	-	5			

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	地方創生に効果があった
	令和5年度は市の創業支援による創業者数及びイベント参加者数ともに、大幅に目標値を超過達成、市の創業支援により創出された新規事業数は順調に目標達成しているが、ベンチャーキャピタル等からの投資については、目標未達。ただし、ベンチャーキャピタル等からの投資については、長期的な視点が必要な指標であり、その他のKPIの達成状況から考えると、市内におけるスタートアップが創出される土壌は着実に成長していると考えられる。
新年度事業見直し 方針等	追加等さらに発展させる
	スタートアップ支援に繋がるイベントやプログラムの開催により、起業に関心を持つ層の裾野の拡大に一定程度の効果があったものと考えられる。 令和5年度は、若い世代から起業に関心をもってもらうため、中学・高校生の起業家精神醸成や起業家的資質向上を目的とした体験プログラムの実施、また、エンジニア人材不足が課題となっている中、起業家のビジネスアイデア実現やビジネスプラン成長に必要なスキル習得を支援するプログラムを実施する等、岡山市の経済成長の担い手として期待されるスタートアップへの支援メニューを強化した。 今後は、更なる裾野の拡大のため起業にまだ関心のない層やスタートアップ支援が行われているももスタの存在をまだ知らない層にもリーチし、スタートアップへ取り組む数を増加していく取り組みが必要があると考えている。出前起業体験イベントを各地で実施することで、これまでリーチできていなかった層にスタートアップやももスタの存在を知ってもらい、スタートアップへ取り組む数が増加することを目指し、スタートアップが創出され成長が促進される環境づくりに取り組んでいく。

事業名	岡山ブランド魅力発信事業
-----	--------------

担当局	産業観光局
-----	-------

事業概要

実施年度	R4年度～R6年度（3カ年）
------	----------------

単位：円	R4年度	R5年度	R6年度
歳出（事業費）	11,873,310	11,601,140	
歳入（交付金）	(5,805,795)	(5,800,570)	

全体事業の概要	・都市ブランドになっている果物等を活かして、儲かる農業の仕組みを構築するため、以下の内容を目指す。 ①首都圏を中心に岡山市産農産物の情報（生産方法、こだわり、希少性など）を広くPRし、他の産地の農産物と差別化することで付加価値を高め、知名度を上げる。 ②首都圏の飲食店が岡山市産農産物を使った商品の開発・販売に取り組むことで、農産物の味、利用方法等の魅力を更にPRでき、その商品で売りに貢献した飲食店への販路を拡大する。 ③首都圏における農産物の知名度向上・販路拡大によって、農業者の所得増加と意欲向上を図り、「儲かる農業」として後継者・担い手の確保につなげる。 ④首都圏でフェアを実施することで、岡山市の認知度向上を図り、また、首都圏での取組を岡山市でも実施することで、観光誘客によって岡山市への人の流れを拡大させ、観光客に農産物をPRするほか、市民に地元農産物への愛着を涵養し、地産地消の機運醸成につなげるなど、関係人口の増加と地域経済の活性化につなげる。 ・首都圏で岡山市産農産物の付加価値及び認知度を上げて販路を拡大することで、儲かる農業の実現を目指し、さらには岡山市での農業の担い手の増加につなげる。
事業内容	【岡山地産メニューフェア】 ・産地訪問ツアー 首都圏の飲食店のシェフを岡山市に招き、岡山市の農産物や生産者と直接触れ合う機会を設け、岡山市産農産物の魅力を知ってもらう。 ・岡山地産メニューフェア 産地訪問ツアーに参加したシェフに岡山市の農産物を使った商品を開発してもらい、首都圏で岡山地産メニューフェアを開催して販売する。シェフに対しては、飲食店の売上に貢献できる農産物であると認識してもらい、岡山地産メニューフェア参加者に対しては、岡山市の農産物の魅力を知ってもらい、飲食店への販路拡大や取引量の増加、農産物を含めた岡山市の認知度向上を図る。 ・PR 岡山市農産物の生産情報（生産方法、こだわり、希少性、主な特徴等）の動画をSNSで広くPRすることで、消費者の興味・関心を高めるとともに、他の産地の農産物と差別化して付加価値を高め、知名度の向上を図る。 飲食店の情報提供サービスを運営している民間企業がもつサービス利用者の情報や、民間企業が保有する年齢や性別、嗜好などのインターネット利用者の情報を活用し、岡山地産メニューフェアに参加する可能性が高いターゲットを絞り込み、ターゲットングメールや広告（WEB広告、SNS広告）により岡山地産メニューフェアをPRする。 また、岡山地産メニューフェアに参加した人にアンケートを実施して、性別、年齢層、嗜好等の情報を収集し、次年度のターゲットング広告の精度・効果を上げる。 ・岡山市産農産物の講習会 産地訪問ツアーに参加していないシェフや、参加したが岡山市産農産物を取り扱っていないシェフに対し、岡山市産農産物の魅力を伝えるため、産地訪問ツアーに参加して岡山市産農産物を取り扱っているシェフによる講習会を開催する。 講習会後には、講習会に参加したシェフと岡山市産農産物の生産者をオンラインで繋ぎ、新たな取引に向けて支援する。 ・観光誘客と地産地消の機運醸成 令和4年度の岡山デスティネーションキャンペーンに合わせて、岡山地産メニューフェアを岡山市でも開催し、観光誘客、観光客への農産物PR、市民に地産地消の機運醸成を図る。 【岡山サンドイッチフェア】 ・農産物を使用した商品の開発・販売 首都圏を中心にサンドイッチ専門店28店舗を展開する企業とコラボし、岡山市の農産物を使ったサンドイッチのメニューを開発・販売する。これにより、販売店に対しては売上に貢献できる農産物であると認識してもらい、サンドイッチ購入者に対しては岡山市の農産物の魅力を知ってもらうことで、販路拡大や取引量の増加、農産物も含む岡山市の認知度向上を図る。

KPIの進捗状況

指 標 名	生産者と飲食店等の取引継続件数（件）		
	R4年度	R5年度	R6年度
目 標 値	3	6	9
実 績 値	4	10	

指 標 名	アンケートによる岡山市農産物の認知度（％）		
	R4年度	R5年度	R6年度
目 標 値	20	25	33
実 績 値	30	31	

指 標 名	首都圏における岡山地産メニューフェア事業に参加したシェフ数（人）		
	R4年度	R5年度	R6年度
目 標 値	10	20	40
実 績 値	10	20	

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	地方創生に効果があった
	KPI①については、R5年度事業終了後も実施店舗メニューフェア10店舗、サンドイッチフェア1店舗のうち、メニューフェア9店舗、サンドイッチフェア1店舗において取引継続がある。メニューフェア後の継続取引店舗においては、岡山産農産物を使用した独自フェアを開催し、認知度向上にも貢献している。KPI②については微増ではあるものの、アンケート回答者が増加（n=3,760→n=6,589）したことから、より精度の高いアンケート結果を得ることができた。 岡山市の主要7品目（白桃・ぶどう・黄ニラ・パクチー・千両茄子・酒米・米）について、認知度を問うアンケートを実施した結果、フルーツ（白桃・ぶどう）を知っていると回答した人は約85％に対して、野菜（黄ニラ・パクチー・千両茄子・酒米・米）を知っていると回答した人は約10％に止まっており、野菜の認知度を上げて行くことが必要であると判明した。 メニューフェア及びサンドイッチフェアでは岡山市産農産物を使用したメニューを開発、販売し、岡山市産の農産物の魅力を感じていただいた実施店舗において、フェア以外での取引も継続していることから、岡山市産農産物の認知度向上の成果は実感できている。
新年度事業見直し 方針等	事業の継続
	最終年度となる令和6年度は認知度の低い野菜を中心に継続実施していくことで、新たな農産物の取引の機会の創出と、岡山市産農産物の『高品質、おいしい』といったイメージの定着を図る。

事業名	デジタル技術を活用した健康習慣の定着化事業
-----	-----------------------

担当局	保健福祉局
-----	-------

事業概要

実施年度	R 5 年度～R 7 年度（3カ年）
------	--------------------

単位：円	R5年度	R6年度	R7年度
歳出（事業費）	59,647,716		
歳入（交付金）	(29,823,858)		

全体事業の概要	健康とは、病気や障害がない状態のことではなく、病気や身体的な課題の有無に関わらずそれぞれが生きがいを持ち、よりよく生きることであると捉えた岡山市の目指す将来像に向けて、従来から実施してきた「健康ポイント事業」を継続する。「運動」「栄養・食生活」「社会参加」の活動にポイントを付与し、インセンティブによって行動変容を図る、という基本的な構成を引継ぎつつ、参加者の利便性向上のため、スマートフォン向けアプリケーションを使用するなど、デジタル技術を活用した生活習慣の定着化事業を実施する。
事業内容	日常生活の中で無理なく健康的な生活習慣に取り組めるよう、参加申し込み、ポイントの獲得、交換などをスマホアプリに一本化し、アプリの中で広く健康に寄与すると考えられるものに対しポイントを付与する。また、ためたポイントは抽選で特典と交換できるようにする。さらに、健康分野だけでなく、まちづくり事業など様々な施策や民間事業者の取り組みもポイント付与対象とし、多角的に健康的な生活習慣の定着を図る。

KPIの進捗状況

指 標 名	医療費抑制効果額（千円）		
	R5年度	R6年度	R7年度
目 標 値	35,000	87,500	105,000
実 績 値	95,519		

指 標 名	健康習慣の定着率（％）		
	R5年度	R6年度	R7年度
目 標 値	44.0	47.0	50.0
実 績 値	68.6		

指 標 名	市民のヘルスケア推進に寄与するサービスを提供する店舗の数（箇所）		
	R5年度	R6年度	R7年度
目 標 値	200	250	300
実 績 値	411		

指 標 名	アプリ相談会の総参加者数（人）		
	R5年度	R6年度	R7年度
目 標 値	240	360	480
実 績 値	739		

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	地方創生に非常に効果的であった
	事業開始初年度ということもあり、健康に関する関心が高い参加者・事業者を取り込むことができ、目標を超える定着率、店舗数を達成することができた。また、キックオフイベントや各区での相談会等、様々な広報を行った結果、スマホを使って手軽に始められる健康ポイント事業を広く周知でき、想像以上の多くの方が相談会に参加された。さらに、インセンティブによって参加者のモチベーションも上がり、アプリ内のウォーキングイベントに楽しみながら参加することで、歩数も大幅に増加するなど、大きな効果があった。
新年度事業見直し 方針等	事業の継続
	参加者の取り組みやすさや継続的な活動の定着のため、楽しみながら参加できるアプリ内イベントの充実や、市民のヘルスケアに寄与する事業者の増加に向け、引き続き取り組んでいく。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ／旧地方創生拠点整備交付金）

事業名	造山古墳が結ぶ・日本遺産群広域連携拠点整備プロジェクト
担当局	産業観光局

事業概要

実施年度	R元年度
------	------

単位：円	R1年度		
歳出（事業費）	54,614,710		
歳入（交付金）	(25,375,000)		

全体事業の概要	造山古墳ビジターセンターを整備することにより、造山古墳をはじめとする吉備路全体の魅力向上や周遊観光の促進を図る。 また、校外学習としての活用を推進し、より多くの子どもたちの地域文化への理解、郷土愛の醸成を通じて将来的な地元定着の促進を図るとともに、文化財である造山古墳の歴史的・文化的価値や魅力を積極的に発信し、愛護意識の醸成を図る。
事業内容	（１）広域観光の推進 ビジターセンターを新設し、造山古墳はもとより周辺の日本遺産構成文化財や観光施設についても併せて情報発信するとともに、日本遺産関連事業とも連携し、吉備路の広域周遊観光の促進を図る。 （２）地元定着の促進 校外学習として利用する小学校をより一層拡大することに努め、子どもたちの地域文化に対する理解や郷土愛の醸成を通じて将来的な地元定着の促進を目指す。 （３）文化財としての価値の周知と愛護意識の醸成 地元観光ボランティアによる普及活動に加えて、同センターにおいて造山古墳の概要や歴史的背景などを積極的に情報発信し、同古墳の魅力や歴史的、文化的価値のより一層の周知を図るとともに、愛護意識の醸成を推進する。

KPIの進捗状況

指標名	造山古墳ビジターセンター来館者数（人）					
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
目標値	13,000	13,260	13,530	13,870	14,300	
実績値	8,700	15,787	15,880	18,582	25,594	

指標名	観光客入込客数（吉備路）（千人）					
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
目標値	990	1,000	1,015	1,030	1,045	
実績値	960	375	189	723	806	

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	地方創生に非常に効果的であった 令和2年3月末に造山古墳ビジターセンター整備が完了し、令和2年4月にオープンした。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により全市的に観光客の減少を余儀なくされる中においても、来館者数は好調に推移するなど成果を上げている。
新年度事業見直し方針等	事業の継続 ○今後の方針の理由 今後も造山古墳ビジターセンターを活動拠点とした造山古墳や周辺観光施設の情報発信に取り組む。 地元の観光ボランティア団体等と連携しながら造山古墳の魅力や歴史的、文化的価値のより一層の周知につながる各種事業の推進を図る。

事業名	元気で“おかやま”～バス・ゲートウェイ整備事業～
-----	--------------------------

担当局	都市整備局
-----	-------

事業概要

実施年度	R元年度
------	------

単位：円	R1年度		
歳出（事業費）	71,599,000		
歳入（交付金）	(28,715,284)		

全体事業の概要	岡山市営駅南駐車場において、本市の玄関口にふさわしい待合所を整備し、更なる観光誘客の推進を目指す。また、豪雨災害からの復興に向けて、建設にはＣＬＴ材を用い岡山県産材の普及促進による地場産業の活性化を図るとともに、太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの活用と「晴れの国 おかやま」としてのイメージ回復を目指す。
事業内容	（１）受入体制の強化と観光誘客の推進 本市の玄関口にふさわしい木のぬくもりあふれる待合所を整備し、受入体制の強化を図るとともに、市内観光関連団体等によりリニューアルされた本施設の情報提供や日本遺産関連事業におけるモニターツアー等での利用促進を図り、更なる観光誘客の推進を目指す。 （２）豪雨災害からの復興に向けた地域産業の活性化 岡山県真庭市（岡山連携中枢都市圏連携市）が普及を推進しているＣＬＴ（直交集成板）を用い建築することにより、ＣＬＴ建築物の実物に触れる機会を創出するとともに、ＣＬＴの概要、魅力等を掲示し、岡山県産材の利用促進を図る。 （３）豪雨災害からの復興に向けた「晴れの国 おかやま」としてのイメージ回復 太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、「晴れの国 おかやま」のＰＲを行い、本市のイメージ回復を図る。

KPIの進捗状況

指 標 名	駅南駐車場利用台数（大型バス）（台）					
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
目 標 値	16,252	16,672	17,102	17,542	17,992	
実 績 値	14,260	7,393	8,399	10,080	10,784	

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	地方創生に効果がなかった
	令和元年度は、整備工事（令和2年3月末完成）を実施した年度であり、工事スペースとしてバスの駐車枠を長期間減らしたこともあり、例年より大型バス利用は減少している。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和２年度以降は大型バスの利用が大幅に減少した。令和４年度からは回復傾向にあるので、今後の利用状況を踏まえ事業効果を整理する。
新年度事業見直し方針等	事業の継続
	令和６年度の実績を踏まえて、事業効果を検証する。

事業名	高松城址公園を中心とした歴史・観光拠点整備事業
-----	-------------------------

担当局	都市整備局
-----	-------

事業概要

実施年度	R 4 年度
------	--------

単位：円	R4年度		
歳出（事業費）	72,796,588		
歳入（交付金）	(34,312,182)		

全体事業の概要	○岡山市は豊富な歴史・文化資源に恵まれており、国指定史跡数は18であり、政令指定都市の中では、京都市に次いで2番目となっている。市の中心部には岡山城や岡山後楽園、周辺地域には造山古墳（全国第4位の規模の前方後円墳）を始め、吉備津神社や吉備津彦神社等の全国有数の歴史・文化資源があり、これらの周辺地域の歴史・文化資源をストーリーとした「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」は日本遺産に認定されている。 ○周辺観光の観光客数は888千人（令和2(2020)年）となっており、後楽園・岡山城周辺の観光客数907千人と同等の観光客数となっており、周辺観光は岡山市の観光にとって必要な位置づけとなっている。 ○岡山市の観光入込客数は、平成28（2016）年の8,297千人をピークに横ばいとなっている。さらに、令和2(2020)年1月より世界中で広がった新型コロナウイルス感染症の影響で観光客数は激減し、特に、新型コロナウイルス感染症流行前に増加傾向にあったインバウンドに関して、令和2（2020）年8月では、流行前の平成30（2018）年同月比と比較して約99%の減少となっている。 ○歴史の転換期となる「高松城の水攻め」で有名な、高松城址公園周辺には、高松城址本丸、清水宗治の首塚、水攻築堤跡等の遺跡も残っており、周遊観光における重要な観光資源であり、この資源を活用した観光商品の開発とPRを行い、さらに、高松城址公園に訪れた観光客を、その他の周辺観光や岡山城等への観光に繋げることで、岡山市全体の観光客の増加、特に滞在型観光客の増加を目指す。これらを戦略的に行うことで、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んだ観光業等（交通機関・宿泊施設・飲食業・観光施設・土産店等）を早急に回復させ、地域の雇用や、経済の回復、そして、更なる地域経済の活性化を目指す。
事業内容	「高松城址公園資料館新築事業」 ○既存の資料館をリニューアルすることで資料館自体の集客を増やすとともに、周辺の観光情報の継続的な発信を行うことで、広域周遊観光の促進を図る。 ○高松城址の概要紹介パネル（高松城の水攻めの様子や時代背景等）を作成するとともに、出土品や歴史資料を効果的に展示することにより、来館者に対して高松城址公園及び日本遺産の魅力を発信する。 ○新設する資料館に液晶案内モニター、椅子等を設置し、日本遺産構成文化財の中心的役割を担う施設として充実させる。また、小学校の校外学習に活用し、子どもたちの郷土愛の醸成を図る。

KPIの進捗状況

指 標 名	観光客数（岡山市吉備路）（人）					
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
目 標 値	960,000	970,000	980,000	995,000	1,010,000	
実 績 値	－	1,088,200				

指 標 名	高松城址公園資料館来館者数（人）					
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
目 標 値	10,000	11,000	12,500	14,500	17,000	
実 績 値	－	20,500				

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	地方創生に非常に効果的であった 令和5年6月4日にリニューアルオープンをし、令和5年度の資料館来館者数は令和2年度の約2倍となり、事業効果が非常にあった。
新年度事業見直し方針等	事業の継続 高松城址公園資料館来館者数の5ヶ年目標値である7,000人増加を、令和5年度の1年間で達成することができた。今後は展示替え等を適宜実施し、資料館来館者数を増やすことで、吉備路全体の観光客数増加を図っていく。

基本目標1

岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

数値目標名(単位)	基準値(R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	状況
①企業立地・再投資件数 (累計)(件)	60 (H28～R1)	101 (H28～R5)	116 (H28～R7)	上昇
②市内企業における管理職(課長相当職以上)に占める女性の割合(%)	7.7 (H30)	10.9 (R3)	15.0 (R7)	上昇

【数値目標の評価と今後(R7)までの見通し】

①企業立地・再投資件数

優れた広域拠点性を有する岡山市の立地特性に加え、吉備スマートICの利便性向上など道路ネットワークに強化により、地域未来投資促進法等を活用した物流施設の新設が多く、件数は順調に推移している。引き続き、積極的に誘致活動を進めるとともに、企業の用地確保を支援することで、目標値を達成できる見込み。

②市内企業における管理職(課長相当職以上)に占める女性の割合

シンポジウムやセミナーなど女性活躍に向けた事業を実施したことや、R4年度以降、女性が輝く男女共同参画推進事業所認証数が順調に増加していることから、R7年度には目標値を達成できる見込み。

次期総合戦略に向けての検討課題

- ◆ 地域経済の活性化に向けて、企業立地の推進やスタートアップ・地場企業のイノベーション創出を推進するとともに、企業を取り巻く環境が激変していることを踏まえ、経営基盤強化等への支援が必要である。
- ◆ コロナ禍後、観光客数、コンベンション開催件数・参加者数は復調傾向にあるものの、回復に至っていないことから、岡山市固有の歴史・文化資産の磨き上げと発信力強化により、観光・インバウンド誘客につなげるとともに、MICEについても、コンベンション以外の多様な行事の誘致を検討するなど、更なる強化を図る必要がある。
- ◆ 高齢者・女性・障害者・外国人など、多様な人材がその個性と能力を発揮し、地域に活力をもたらす環境の整備を目指し、就労支援等に関する幅広い取組を進める。

基本目標2

岡山市への新しいひとの流れをつくる

数値目標名(単位)	基準値(R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	状況
①移住・定住支援により移住した人数(人)	30	219	90	上昇

【数値目標の評価と今後(R7)までの見通し】

①移住・定住支援により移住した人数

地方移住への関心の高まりとともに、移住候補地の自治体が行う補助制度を自発的に調べる方々も増えており、岡山市でも補助制度の認知が進み、これらを活用し移住が増加している。

こうした全国的な流れに加えて、R3年6月に東京・大阪に開設した「おかやまぐらし相談センター」において、移住希望者のニーズが高かった就職・転職支援に力を入れたことにより、センターへの相談が移住に繋がる件数が増加しており、当初設定した目標値を既に達成している。

次期総合戦略に向けての検討課題

- ◆ さらなる移住者の呼び込みに向けて、「都市の総合力を高め、岡山市を暮らしやすい都市にする」という俯瞰的な視点のもとで、施策同士の連携を図り、移住先・訪問先として選ばれるまちを目指す。
- ◆ 深刻化する市内企業の労働力不足解消にあたり、企業側への支援のみならず、若者の地元定着促進や外国人の生活支援など、将来岡山市で就労者となりうる層に対する施策も一体的に進める必要がある。
- ◆ スマート技術の活用による生産性の向上や販路拡大を通して「儲かる農業」の実現を目指すとともに、就農サポートや補助金の交付等により、減少する農業の担い手確保を図る。
- ◆ 市民や移住者、関係人口等の誰もが居場所と役割を持ち、生涯を通じて健康にいきいきと活躍する「生涯活躍のまち」を目指し、市民の健康増進や社会参加に向けた取組等を進める。

基本目標3

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標名(単位)	基準値(R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	状況
①子育てしやすいまちと思う保護者の割合(%)	54.4 (H30)	57.2	65.0 (R5)	上昇
②保育所の待機児童数(人)	259 (R2.4.1)	0 (R6.4.1)	0 (R8.4.1)	上昇
③放課後児童クラブの入所希望児童(潜在ニーズを含む見込み)に対する入所できた児童の割合(%)※	77.3 (R2.4.1)	95.1 (R6.4.1)	100 (R8.4.1)	上昇

【数値目標の評価と今後(R7)までの見通し】

①子育てしやすいまちと思う保護者の割合

前回調査より上昇したが、目標値には至っておらず、引き続き、子育て施策をより一層進めていく。

②保育所の待機児童数

保育の受け皿整備と保育士確保が進んだことに加え、保育コンシェルジュによる寄り添う支援に力を入れた結果等により、目標値を達成した。

③放課後児童クラブの入所希望児童(潜在ニーズを含む見込み)に対する入所できた児童の割合

積極的な施設整備により受け入れ児童は増加しており、割合は目標値に向けて着実に増加しているが、ニーズの高まりに追いついておらず、待機児童数は増加している。

※こども計画策定に伴い、R9.4.1時点での待機児童0人を目標とする新たな成果指標を設定予定。

次期総合戦略に向けての検討課題

- ◆ 希望する誰もが安心して出産・子育てができるよう、妊娠期から乳幼児期まで切れ目のない支援に向けた取組の一層の強化が求められる。
- ◆ 放課後児童クラブの受け皿の確保を進めるとともに、困難を抱える子ども・家庭の支援をさらに推進する必要がある。
- ◆ 男性の子育てへの参加促進等や、固定的な性別役割分担意識の解消など、誰もが仕事と家庭を両立できる社会の実現を目指す。

基本目標4

安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

数値目標名(単位)	基準値(R1)	R6.3.31時点 最新数値	目標値 (R7)	状況
①居住誘導区域内人口密度(人/ha)	58.4 (H27)	59.4 (R2)	59.6	上昇
②健康寿命(歳)	男性71.7 女性74.4 (H28)	男性72.2 女性75.0 (R1)	男性72.6 女性76.2	上昇

【数値目標の評価と今後(R7)までの見通し】

居住誘導区域内人口密度

都市計画マスタープランに基づく計画的な土地利用の推進と関連施策の実施により、各地域の拠点性が高まり、居住誘導区域内の人口密度が向上したと考えられ、今後も引き続き取組を進めていくことで、R7年度には目標値を達成できる見込み。

②健康寿命

H28年と比較し、男性、女性とも上昇傾向にある。「身体活動・運動」「栄養・食生活」「社会参加」を三本柱とした、自然に健康になれる社会環境づくりが進んでいると考えられるが、昨年末に発表された全国値では、新型コロナウイルス感染症の影響により、R1年度と同程度となっており、目標値の達成は困難な見込み。

次期総合戦略に向けての検討課題

- ◆ コンパクトでネットワーク化されたまちづくりに向け、適正な土地利用による都市機能・居住の緩やかな誘導と、公共交通サービスの安定的な提供を図っていく必要がある。
- ◆ 生活交通の導入や固有の地域資源を生かした魅力・活力づくりなど、地域コミュニティの維持を図る取組を充実させる。
- ◆ 岡山城、ハレノワといった歴史・文化資源の活用やアリーナの新設により、新たな賑わいの創出や地元への愛着・誇りの醸成を図る。
- ◆ 自然災害の激甚化・頻発化を踏まえた総合的な浸水対策や都市インフラの耐震化・長寿命化等に加え、地域防犯力を高める取組を進めることにより、市民の安全・安心を高めていく。
- ◆ 温室効果ガス削減目標達成に向け、再生可能エネルギーの活用等を進めるとともに、循環型社会の構築による持続可能なまちづくりを進める。